

## 平成25年度第2回森林の未来を考える懇談会 発言概要

1 日 時 平成25年10月29日（火）10：30～30日（水）16：00

2 場 所 別紙行程表のとおり

3 出席者 別紙出席者名簿のとおり

4 発言概要

### （1）森林環境交付金事業の取組について

- ・今年度の調査では、昨年度とは少し印象が違い、落ち着きが出てきていると感じた。
- ・震災後の現状を認めたくえで、何か少しでも良くしようと活動していると思う。
- ・鮫川村の館山公園は、平成18年度にも現地調査も行ったが、毎年東京の学生と交流する取組が現在も継続していることが確認できた。
- ・石川町の藤田城跡森林整備は、取組が地域に根付き広がった良い事例だと思う。
- ・森林環境税は「呼び水」であって、取組のスタートを支援するもの。
- ・森林環境税を使うことで「こういう取組をすると、こういう成果が出る」ということが解って同様の取組が広がっていく、県民自らが行動するというのが理想。
- ・重点枠を活用し、木造木質化や木製品導入の様々な取組が行われている。
- ・木材は朽ちるということを前提に、その更新をどうしていくかが課題だと感じた。

### （2）森林環境基金のPRについて

- ・森林環境税の納税を通じて、「森林に関わっている」ということを感じてもらうことが、森林環境税の大きな目的。
- ・普段森林に関わりのない人達に知ってもらうための広報活動や宣伝・普及啓蒙活動を、これまで以上に実施していくべき。
- ・一般の方も対象とした現地調査を実施できないか。
- ・告知も、全戸に配布されているウィークリー紙やラジオなど、新聞を取ってない方や、テレビやインターネットを見ない方にも伝わるようにすることも考えて欲しい。
- ・コミュニティラジオは、地域の人が出演することで話題になり、意外と聞かれている。森林環境税の広報には良い媒体だと思う。
- ・今回の小学校や幼稚園も、先生や子どもがラジオに出て話をすれば、保護者やその友達が聴き、話題が地域に広がっていく。
- ・調査した幼稚園や小学校の取組は、TVにも取り上げてもらえる内容。積極的に情報提供すべき。
- ・今回の幼稚園の取組は、子どもが小さい頃から木材に親しめる意味で、大きな効果がある。
- ・森林環境交付金の良い使われ方が、他の幼稚園や学校に知られていないのではもったいない。
- ・良い取組を行っている学校の事例を学校同士で話せるよう、機会をつくるべき。
- ・木造・木質化を行った学校や幼稚園で、地域の人々や関係者に対し内覧会を実施してはどうか。

以上